



第 28 回信用金庫社会貢献賞

# 地域活性化しんきん 運動・優秀賞

岩手県 盛岡信用金庫

## 療養児への本寄贈プロジェクトに参画

# 「本中心の街づくり」の理念に賛同 全店に古本回収（寄付）ボックスを 設置し持続可能な社会の実現目指す

盛岡信用金庫は2021年1月、岩手県盛岡市、滝沢市、矢巾町、FVC Tohoku株式会社（現ミライドアTohoku株式会社）との共同出資により「もりおかSDGs投資事業有限責任組合（もりおかSDGsファンド）」（以下「同ファンド」）を設立した（のちに紫波町が加入）。SDGs（持続可能な開発目標）に基づく17のゴールの達成及び社会課題解決に寄与する起業家や事業者への資金供給と経営支援を目的としていて、ファンド総額は1億9900万円。設立から2025年3月末までの投資実績は18社1億4104万円となっている。

同ファンドの第1号投資先である株式会社盛岡書房（以下「同社」）は、古本のリユースや本に関連したイベントを手掛け、本の好循環を生み出している。同社は2021年8月、「象と花プロジェクト」をスタート。読み終えた本をクリーニングして再生し、インターネットで販売。その売り上げを原資に新本を購入し、小児がんや慢性疾患で長期入院する子供たちに寄贈している。

同金庫は同社の理念に賛同し、2021年6月より同金庫役員から古本の寄付を募る活動を開始。同年8月からはプロジェクトのメインパートナーとして全23営業店に「古本回収（寄付）ボックス」を設置し、お客様をはじめ同金庫役員から古本の



2021年10月、岩手医科大学附属病院を訪問し、小児無菌病棟に入院する子供たちが自由に読めるよう新本53冊を寄贈。同金庫は感謝状を授与された

寄付を募っている。2021年8月から2023年7月までに計18828冊の寄付を受け付けた。2021年10月には、岩手医科大学附属病院に入院する子供たちへ新本53冊を寄贈。2025年3月までに計302冊の新本を寄贈している。

同金庫と同社は、2022年2月に岩手県遠野市の図書館「こども本の森遠野」と連携した新プロジェクトを開始。図書館の棚から入れ替える本や同金庫遠野支店の「古本回収（寄付）ボックス」に寄せられた古本の査定額を基に、販売した代金の一部を図書館の運営費として循環させる取り組みで、2022年2月から2025年3月までに書籍など計6059冊の寄付を受け付けた。

同金庫では、今後も直接金融による支援と併せて事業のサポートにも関わる姿勢を大切にして、「地域経済」「地域社会」「地域環境」の側面から持続可能な社会の実現を目指す。



盛岡書房 代表取締役 高館美保子氏。同社はもりおかSDGsファンドの投資第1号であり、本を中心とした街づくりを通して、障がい者就労支援など雇用の創出を図っている



2021年1月、もりおかSDGs投資有限責任組合設立記者会見。SDGsに基づく17のゴールの達成及び社会課題の解決に寄与する株式会社への資金供給と経営支援を行っている



象と花プロジェクトのチラシ。このプロジェクトは2021年8月に開始された古本回収の売り上げを原資に病氣と闘う子供たちに新本を送る本循環。プロジェクト名の象と花は群れの仲間同士で互いに助け合う象と優しい贈り物の象徴である花を掛け合わせている



同金庫全営業店でも古本回収（寄付）ボックスを設置し、プロジェクトに協力している。来店客や従業員に呼びかけ古本の寄付を募り、子供たちの心の成長を応援する

同金庫と盛岡書房は2022年2月、図書館「こども本の森遠野」と協定を結び、図書館が所有する、汚れや重複で未活用の本4,400冊を同社が回収・販売、また同金庫遠野支店の古本回収（寄付）ボックスに寄付された本を販売。査定額と売上額の一部を施設運営費に充当し、本の好循環を生み出している



盛岡書房が取り扱う約6千冊の本。奥が作業場となっている



集められた本は一つ一つ状態を確認、修繕されプロジェクト専用ホームページで販売、売り上げの一部を新本の購入代金に充当する

## 本でつくる未来～循環型の社会へ

盛岡信用金庫 業務執行役員 営業推進部長 小林 真二

もりおかSDGsファンドの設立目的は、社会課題解決のためにファンド機能を活用し起業家、第二創業への支援を果たし地域の持続可能な枠組みを支えることです。

（株）盛岡書房は、本を中心とした街づくりを通して雇用を創出する書店です。

同社の「象と花プロジェクト」は、寄付により集積された本をリペア（修繕）したうえで販売し、その売り上げを原資として購入した新刊本を寄贈する循環型の枠組みを構築しています。

読書家が多い地域だからこそ、未来をつくる人の育成や、本の文化が根付いた街づくりが可能だといえます。

当金庫の営業店に設置した「古本回収（寄付）ボックス」には、プロジェクトが開始されてから途絶えることなく本が寄せられています。寄付が一過性のものではなく、自身が読み終え不要となった本は「誰かのためになる」という意識が浸透したからだと感じています。

## 本を通じたSDGsの実現へ

盛岡信用金庫 理事長 浅沼 晃

第28回信用金庫社会貢献賞「地域活性化しんきん運動・優秀賞」の栄誉を賜り、心より御礼申し上げます。

当金庫は、起業家や第二創業への支援と、持続可能な地域社会を支えるとともにコロナ禍からの復活を目指すことを目的に「もりおかSDGsファンド」を設立しました。

本ファンド第1号の投資先である（株）盛岡書房は、障がい者就労支援事業として古本の回収・クリーニング・再販を営んでおり、そこから「象と花プロジェクト」が生まれました。本の循環により、病氣や治療に立ち向かう子供たちを、あたたかみのある本を贈ることで笑顔にさせる同社の活動に共感し、古本の回収という形で応援しています。

当金庫は、本を通じた疑似体験から子供たちの心が成長することを願い、これからも地域社会の発展と活性化のために尽力するとともに、地域のSDGs活動を支援してまいります。

このたびは、第28回信用金庫社会貢献賞「地域活性化しんきん運動・優秀賞」の受賞、誠にありがとうございます。心よりお慶びを申し上げます。

岩手医科大学無菌病室には、病氣のために長期入院を余儀なくされる子供たちがいます。この子供たちは、本来積むべき社会経験ができず、痛い検査やつらい治療に立ち向かわなければなりません。そんな子供たちと支えるご家族に、本を通じてさまざまな経験をしてもらったり、絵本によって笑顔になってもらったりするの、（株）盛岡書房が立ち上げた「象と花プロジェクト」です。

このプロジェクトは、読み終えた古本を回収し、新品の本に変えて病氣の子供たちに届けてくれる素晴らしい社会貢献活動です。貴金庫は、この取り組みにいち早く賛同され、率先して「古本回収ボックス」を全支店に設置し、訪れるお客様に協力を呼びかけてくださいました。皆様の善意が新しい本となり、病氣の子供たちとご家族に届いているのです。

本から得られる迫体験は、時に実経験を越えることもあり、1冊の本との出会いが子供の人生に大きな影響を与えることもあるのです。どうかこれからもお客様からの善意を本に変え、子供たちに勇気と元氣、希望を与え続けてください。貴金庫のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



病氣の子供たちとそのご家族に勇気と希望を与える本の力

岩手医科大学小児科教授 赤坂 真奈美